

津幡町の神社と祭神の分析 萩坂谷編

宮本眞晴¹

河北潟湖沼研究所河北潟歴史委員会²
〒920-0267 石川県内灘町大清台302

要約： 津幡町にある5つの谷のうち「萩坂谷」について、その流域の33の神社について調査をおこなった。それぞれの神社の沿革や祭神についての調査記録をまとめた。

キーワード：津幡町，萩谷，神社，祭神，式内社

はじめに

津幡町には、南より萩坂谷，俱利伽羅谷，笠谷，種谷，河合谷と5つの谷がある。この中でも「萩坂」という雅趣あふれた地名に、筆者は興味を覚える。どうしてこの地名が付けられたのであろうか。

色々調べると、昭和35年4月5日発行の「公民館報つばた 校下めぐり・別所校下の巻」に興味深い記事があったので転記する。

「萩坂」の地名由来

萩坂の地名については、確かなものはないが、ただ伝え聞くところによると、その昔大伴家持が越中の守に任ぜられ、赴任のため都より下って加賀に入り今の杉の瀬からはしろう仮生を通り、しもなか下中の南を経て南黒坂から越中に出られた時、両側の路ばたに萩の木がおい茂り花咲き乱れているのを見て一首の和歌をよんでから萩坂の地名がはじまったといわれている。史実としては源頼朝の寄進状に「南限萩坂大道」と明記されているところを見るとかなり以前から萩坂の地名があったことが推察出来るのである。

(以下略；原文のまま)

多い。「萩の花」の歌は集中141首あり、そのうち家持の歌は16首ある。しかしそれらの歌を詠んだ地はすべて比定されており、「津幡町萩坂」は無い。

越中の国守として赴任した天平18年(746)頃から今日までこの話が連綿と伝わっていることは驚愕に値する。現在でも仮生から下中への山道に「萩坂道」の地名が残る。

今回は、この「萩坂」の神社と祭神の分析をおこなった。ここで、「萩坂」を津幡川へ流入する明神川，材木川，相窪川の流域とし、旧花園村(現金沢市)の集落にある神社も含めることとした。古来より経済圏，通婚圏が同じと考えたからである。

自分達の神社に、どんな祭神を祀ってあるかを知れば、祖先が何を信じ、何に感謝し、何を頼りに生きてきたかを知ることができる。知ることによって、産土(うぶすな)の神に対する尊崇の念は、一層高まると思う。

萩坂谷の神社・集落・祭神・沿革

以下に支川流域ごとに神社を整理して、それ

[註] 万葉集は全20巻，4千500余首が納められている。家持の歌は集中479首と群を抜いて

1 現 津幡町議会議員

2 連絡先 tel076(288)2409 fax076(288)2962

それぞれの集落、祭神、沿革について述べる。神社名は原則として石川県神社誌に拠った。

[明神川流域]

1. 井上三輪(いのうえみわ)神社(津幡町浅田) 旧村社。大物主命(おおものぬしのみこと) 創立年代不詳。もと井上神社と称し、明治六年村社に列す。同四十一年五月、明神鎮座臼池神社を合併。昭和二十三年臼池神社を分離。 境内に五輪塔多数あり。
2. 臼池(うすいけ)神社(津幡町明神) 旧村社。天照大神(あまてらすのおおかみ)。 創立年代不詳。明治六年村社に列す。明治四十一年浅田鎮座井上三輪神社(1)に合併。昭和二十三年分離独立。
3. 富士社(津幡町井野河内) 旧村社。大山祇神(おおやまつみのかみ)・木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)。 明治四十二年石川郡二塚村古保の無格社於保比 咩能貴神社(おおひるめのむち)(現金沢市古府町の国府神社)に合併されたことになっているが、神体、社殿、社地も旧のまま存し、産土神として仰がれている。非宗教法人で石川県神社誌には記載が無い。
4. 少彦名(すくなひこな)神社(津幡町浅谷)旧村社。少彦名命(すくなひこなのみこと)。 長禄三年(1459)に勧請。大祭の折、自然薯を各戸から奉献し、撤下の薯を湯釜に煮て拝服する神事あり。薬師薯(ながいも)神事という。明治六年村社に列す。同四十一年十二月浅野深谷(現金沢市浅丘町)八幡社を合併。昭和二十三年浅丘八幡社を分離。
5. 八幡神社(金沢市浅丘町) 旧村社。応神天皇(おうじんてんのう)・神功皇后(じんぐうこうごう)比咩大神(ひめのおおかみ)。 浅丘八幡宮は浅野深谷村の産土神(うぶすながみ)。俗に雀八幡と呼ばれた古社。本多・横山・奥村の家老は鳥構えを殊のほか好み、しばしば来遊した。今、安房殿構場、奥村山、横山構場と呼ばれる小屋がある。 一月八日寒雀を献上する祭礼を行う。明治六年村社に列す。同四十年浅谷少彦名神社(4)に合併。昭和二十三年分祀創立。
6. 八幡神社(金沢市榎尾町) 旧村社。応神天皇・神功皇后・比咩大神。 養和二年(1182)勧請。左狛犬の裏に盤持ち石2個。
7. 神代(じんだい)神社(金沢市地代じだい町) 旧村社。伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・伊弉册尊(いざなみのみこと)・菊理媛神(くくりひめのかみ)。 羽咋郡神代(かくみ)村(現羽咋郡志賀町神代)より勧請。明治六年村社に列す。 [註] 志賀町の神代神社は延喜式内社で、祭神は宇迦之魂神(うかのみたまのかみ)。稲荷の神で飲食業の人の崇敬が篤い。
8. 貴船(きぶね)神社(金沢市千杉町) 旧村社。弥都波能売神(みずはのめのかみ)・闇神(くらおかみのかみ)。 長禄三年(1459)農耕水利の願いをもち、京都貴船神社より勧請。明治六年村社に列す。同四十三年地代の神代神社(7)に合祀。昭和二十三年分祀。 [註] 京都府左京区鞍馬の貴船神社は鴨川の源流貴船川の川上に鎮座し、京都の水の守り神。

9. 熊野神社(金沢市依原町) 旧村社・素盞鳴神(すさのおのかみ)・伊弉諾尊・伊弉册尊・菊理姫尊・創建不詳。
- [材木川流域]
10. 日吉神社(金沢市中尾町) 旧村社・明治四十年護国神社(12)に合祀・集落に社殿は存す・石川県神社誌に記載は無い・非宗教法人。
11. 野蚊(のか)(蛟づち)神社(金沢市滝下町) 旧村社・明治四十年護国神社(12)に合祀・集落に社殿は存す・石川県神社誌に記載は無い・非宗教法人。
12. 護国神社(金沢市南千石町) 旧村社・比売大神(ひめのおおかみ)・創建不詳・明治六年村社に列す・明治四十年、今泉村社八幡社・中尾村社日吉神社・北千石村社八幡社・滝下松根村社野蚊(蛟)社・琴坂村社日本武神社・琴村社野蚊(蛟)社を合祀・七つの産土神として崇敬される。
- [註] 神社誌に、祭神は比売大神一柱しか載せていないが、大正九年発行の河北郡誌には護国神社の祭神として、櫛稲田比売命・応神天皇・日本武尊が記載してある。合祀された八幡には応神天皇・神功皇后(ときには武内宿弥・仲哀天皇)、日吉には大己貴命(おこなむち・大国主命のこと)・大山咋命(おおやまくいのみこと)、野蚊(蛟)には野椎神(のつち・別名 鹿屋野比売命・かやのひめのみこと)、日本武には日本武尊(やまとたけるのみこと)が通常、祀られているはずである。
13. 八幡神社(金沢市北千石町) 旧村社・明治四十年護国神社(12)に合祀・集落に社殿は存す・石川県神社誌に記載は無い・非宗教法人。
14. 日本武(やまとたける)神社(金沢市琴坂町) 旧村社・明治四十年護国神社(12)に合祀・集落に社殿は存す・石川県神社誌に記載は無い・非宗教法人。
15. 野蚊(蛟)神社(金沢市琴町) 旧村社・明治四十年護国神社(12)に合祀・集落に社殿は存す・石川県神社誌に記載は無い・非宗教法人。
16. 白山社(津幡町材木) 旧村社・菊理媛命・創建不詳・明治六年村社に列す。
17. 白山神社(津幡町舟尾) 記載無し。
18. 白山神社(津幡町仮生) 旧村社・菊理媛命・創建不詳・明治六年村社に列す。
19. 金山彦(かなやまひこ)神社(津幡町大坪) 旧村社・金山彦神(かなやまひこのかみ)・創建不詳・元大坪地内の土山(どやま)に鎮座していたが社殿が大破し、嘉永年間(1848~53)八幡神社に相殿・後に合祀・明治六年村社に列す。
- [註] 金山彦神社に相殿の八幡の祭神の記載は無い。県内にはもう一座、金沢市西蚊爪町に金山彦神社がある。旧河北郡蚊爪村(現金沢市東蚊爪町)浅野川右岸、式内社須岐(すき)神社の境内にあったものを、元和三年(1617)浅野川左岸へ移転・加賀爪社と称した神社を明治二十九年「金山彦神社」と改

称。祭神は金山彦命。
須岐神社の「スキ」は鉄製農具の「鋤」で、
境内にあった摂社の「金山彦神社」と結び
つくのかも知れない。

20. 八幡神社(津幡町東荒屋) 旧村社。応神
天皇・仲哀(ちゅうあい)天皇・神功皇后・
大山咋命(おおやまくいのみこと)。
明治六年村社に列す。同四十一年同字の山
王社を合祀。御神木の根元に五輪塔多数あ
り。
21. 貴船(きぶね)神社(津幡町七野) 旧村社。
閻神・罔象女神(みずはのめのかみ)。
創建不詳。明治五年村社に列す。
22. 八幡神社(津幡町別所) 旧村社。応神天
皇・仲哀天皇・神功皇后。
明治六年村社に列す。

[藤又川流域]

23. 白山神社(津幡町下藤又) 旧村社。菊理
姫命。
創建不詳。明治六年村社に列す。はじめ
白山社と称したが同29年白山神社と改称。
24. 菅原神社(津幡町下中) 旧村社。菅原大
神(すがわらのおおかみ)。
明治四十二年竹橋の俱利伽羅神社に合祀さ
れたが、昭和二十三年分離。非宗教法人で
神社誌には記載なし。津幡町には他に「菅
原神社は存在しない。現在金沢市片町2丁
目(中央通り)にある「小橋菅原神社」は、
九州太宰府で非業の死を遂げた、菅原道真
の弟が河北郡吉倉村(現津幡町吉倉 笠谷
地区)に創建し、後に犀川神社の向かいに
移転、その後火事等に遭い、移動、旧大和
デパート敷地横から現在地に落ち着いたと

言われているが、吉倉にはその伝承の記録
なし。

25. 藤又神社(津幡町上藤又) 旧村社。天照
大神。
明治四十二年竹橋の俱利伽羅神社に合祀。
昭和三十一年に分離。非宗教法人で神社誌
に記載なし。
26. 八幡神社(津幡町大窪) 旧村社。応神天皇。
明治四十一年に水上神社(30)に合祀。集落
に社殿は存す。
27. 白山社(津幡町山森) 旧村社。伊弉諾命・
伊弉冉命(いざなみのみこと)。
明治四十二年竹橋の俱利伽羅神社に合祀。
集落に社殿は存し、祭祀は集落で行ってい
る。非宗教法人で神社誌に記載なし。神像
2体あり。
社殿裏に石仏(不動尊?・摩滅)・板碑あり。
28. 手向(たむけ)神社(津幡町俱利伽羅) 旧
郷社。素戔鳴命(すさのおのみこと)・神功皇
后。
元正天皇御宇二年(718)堂宇を建立。木曾
義仲より太刀寄進。源頼朝より社領寄進。
前田家より俱利伽羅一村一山、米百三十一
石七斗寄進。前田利長から寄進された社殿
も天保七年(1836)、民家よりの出火で、別
当寺の長楽寺(現不動寺)が焼失。神社本
殿は、慶長十九年(1614)3代藩主前田利
常が、兄の2代藩主利長の病氣平癒を祈願
して建立した石造の社殿である。

[相窪川流域]

29. 朝日神社(津幡町朝日畑) 旧村社。明治
四十一年水上神社(30)に合祀。
集落に社殿存す。神社誌に記載なし。非宗

教法人。

30. 水上神社（津幡町相窪）旧村社・天照大神。

創建不詳。はじめ水上社と称した，明治六年村社に列す。同年水上神社と改称。同四十一年三月に大窪村社八幡社・北横根村社少彦名社・朝日畑村社朝日社を合祀。四か村の産土神として崇敬篤かった。境内に越前笏谷石の古い灯籠あり。ヒサカキの根元に五輪塔の火輪あり。

[註] 大窪・北横根・朝日畑の神社が水上神社から分離した記録は，石川県神社誌には見られない。

大正九年発行の河北郡誌には，水上神社の祭神を天照大神・菊理比売命・少彦彦命・応神天皇と記載している。

31. 少彦名神社（津幡町北横根）旧村社。
明治四十一年水上神社(30)に合祀。集落に社殿存す。神社誌に記載なし。非宗教法人。

32. 少彦名神社（津幡町南横根）旧村社。少彦彦命。
明治四十一年，常徳の白山神社(33)に合祀。

33. 白山神社（津幡町常徳）旧村社。菊理比売命。
創建不詳。明治六年村社に列す。同四十年同字無格社向山社，同四十一年南横根の少彦名神社(原文のまま)・同字村社船尾神社を合祀。

[註] 向山社・少彦名社・船尾神社が白山神社から分離した記録は石川県神社誌には見られない。大正九年発行の河北郡誌には，白山神社の祭神を菊理比売命・天照大神・少彦彦命・応神天皇と記載している。

石川県神社誌には11・15を「野蚊神社」と記しているが河北郡誌には「野蚊神社」と記載されている。野蚊(のづち)神社であれば祭神は野の神「野椎神(のづち)」である。イザナギ，イザナミの14番目に生まれた女神で，又の名を「鹿屋野比売命(かやのひめのみこと)」。先に生まれた兄の「山の神オオヤマツミ」との間に4対8柱の山野の神を生んだ。

祭神の出自と性格

以下にこれまでに挙げた33の神社の祭神の出自と性格について分析する。50音順に示し，祭神を同じくする全国の有名神社も記した。

[註] 天神(あまつかみ)族・・高天原(たかまがはら)系の神

地祇(くにつかみ)族・・出雲系の神

天孫(てんそん)族・・神武天皇以後の系統

人物神・・上記以外の歴史上の偉人

1. 天照大神(あまてらすのおおかみ)

明神(津幡町；以下(津))・白池神社。

上藤又(津)・藤又神社。

相窪(津)・水上神社。

天神族・・父・イザナギ。皇室の祖先とされている。イザナギが黄泉(よみ)の国から帰り，筑紫の日向(ひむか)の橘之小門(たちばなのおと)の安波岐原(あわぎはら)で禊(みそぎ)をした際，左目を洗った時，光とともに生まれた美しい女神。高天原の支配者。

・太陽の神。養蚕・織物の神。国家安泰・産業繁栄の神。

・アマテラスを祭る神社は三重県・伊勢の皇大神宮。

2. 伊弉諾命(いざなぎのみこと)

山森(津)・白山社。

- 伊弉諾尊(いざなぎのみこと)
地代町(金沢市;以下(金))・神代神社.
依原町(金)・熊野神社.
天神族・日本神話の初めに登場する別天神(ことあまつかみ)から数えて七代目に出現した夫婦神の男神.イザナミとともに日本の国を生んだ.
・夫婦ともに国家安泰・子孫繁栄・五穀豊穰・家内安全の神.
・兵庫県淡路島の一宮町・伊弉諾神社の祭神.
3. 伊弉冉命(いざなみのみこと)
山森(津)・白山社.
伊弉冊尊(いざなみのみこと)
地代町(金)・神代神社.
依原町(金)・熊野神社.
天神族・イザナギとともに数多くの神々を産んだが,最後に火の神「伽具土かぐつち」を産んで陰部を火傷し死に黄泉の国へ下る.
・イザナギ・イザナミを祀る神社
・滋賀県多賀町・多賀大社.
4. 応神天皇(おうじんてんのう)
浅丘町(金)・八幡神社.
榎尾町(金)・八幡神社.
東荒屋(津)・八幡神社.
別所(津)・八幡神社.
天孫族・ヤマトタケルの息子である第14代仲哀天皇と神功皇后の子.第一五代天皇となる.百済,新羅から多数の学者や技術者を招いた.仁徳天皇の父でもある.別名,品陀和気命(ほむだわけのみこと)・誉田別尊(ほむだわけのみこと)といい,神功皇后と(時には武内宿弥・仲哀天皇も)一緒に八幡神社の祭神.
・武運・交通安全・開拓・航海などの神.
・大分県宇佐市・宇佐八幡宮. 京都府・石清水八幡宮.
5. 大物主命(おおものぬしのみこと)
浅田(津)・井上八幡神社.
地祇族・オオクニヌシの別名.大己貴命(おこなむちのみこと)など多くの別名を持っている.スサノオの六世の孫とも言われる.艶福家で越後・糸魚川の沼河(ぬかわ・ぬまかわ)比売命ともむすばれている.
・国内平定・農業・医薬・温泉・漁業・縁結び・歌舞音曲と窓口は広い.
・奈良県桜井市・大神(おおみわ)神社.
・オオモノヌシを祀る神社.奈良県桜井市.大神(おおみわ)神社.
・オオクニヌシを祀る神社.羽咋・気多大社.出雲・出雲大社.
6. 大山咋命(おおやまくいのみこと)
東荒屋(津)・八幡神社
地祇族・別名を山末之大主神(やますえのおおぬしのかみ)といい,山裾の神.「山王さん」と呼ばれている.
妻は建玉依(たけたまより)比売命で,京都の賀茂御祖(みおや)神社(下鴨神社)の祭神.古事記に「大山咋神は日枝山(ひえのやま)に坐います。」とある.日枝山は比叡山.日枝は日吉とも書く.
・土木建築・酒造の神.
・東京都千代田区永田町・日枝神社. 滋賀県大津市・日吉神社. 京都市西京区嵐山宮町・松尾大社.
7. 大山祇神(おおやまつみのかみ)
井野河内(津)・富士社.
天神族・イザナギ・イザナミの子.各地の山の神の総本家.コノハナサクヤヒメ(11)の父.孫のクシナダヒメはスサノオと結婚.
・酒造・国土安泰・武門の守護神・商売繁盛.
・青森県中津軽郡・岩木山神社. 山形県・湯殿山神社. 静岡県富士宮市・浅間神社.
神奈川伊勢原市・大山阿夫利神社. 愛媛

- 県越智郡大三島町・大山祇神社 .
- 8 . 金山彦神 (かなやまひこのかみ)
 大坪 (津)・金山彦神社 .
 天神族・・イザナミの子 . イザナミが火の神カグツチを産み , 火傷で苦しみ吐いた「へど」から生まれた . 「へど」が溶鉄に似ているところから金属神 .
 ・製鉄・鉱山・金物の神 .
 ・宮城県牡鹿町・黄金山神社 . 岐阜県垂井町・南宮神社 .
- 9 . 菊理媛神 (くくりひめのかみ)
 地代町(金)・神代神社 .
 菊理比売命 (くくりひめのみこと)
 材木 (津)・白山社 .
 常德 (津)・白山神社 .
 菊理媛命 (くくりひめのみこと)
 仮生 (津)・白山神社 .
 菊理姫命 (くくりひめのみこと)
 下藤又 (津)・白山神社 .
 菊理姫尊 (くくりひめのみこと)
 千杉町 (金)・貴船神社 .
 地祇族・・白山比咩神のこと . 全国 3,000 社を超える白山神社があるが「古事記」には全く登場せず , 「日本書紀」に一箇所だけ登場する女神 .
 古代東北アジアのシャーマン(巫女みこ)の系統の説が有力 . 「くくる」は「水くくる」で「禊(みそぎ)」の意 . 死霊の宣託を語ったイタコの如き女神 . 古代アジアのツングース系民族の「白山部」という支族の中で生まれた「白頭山 , 太白山」信仰が日本海を渡ったなどの説がある .
 イザナギ , イザナミとの三神が白山神社の祭神 .
 ・五穀豊穡・生業繁盛・開運招福 .
 ・鶴来町・白山比咩神社 .
- 10 . 闇 神 (くらおかみのかみ)
 千杉町 (金)・貴船神社 .
 七野 (津)・貴船神社 .
 天神族・・父はイザナギ . イザナギが , イザナミの死因をなしたカグツチの首を切った折 , 剣を握った手指の間から洩れた血から生まれた .
 クラは谷を意味し , オカミは水の神 , または雨雪を司る神で竜神とされる . 水の調節を図り , 豊葦原の瑞穂の国の穀物を豊に稔らせる神 .
 ・雨乞い・止雨・灌溉・養蚕 .
 ・京都市鞍馬・貴船神社 .
- 11 . 木花開耶姫命 (このはなさくやひめのみこと)
 井野河内 (津)・富士社 .
 天神族・・別名、吾田鹿葦津姫命 (あたのかあしづひめのみこと)オオヤマツミ(7)の末娘 . 瓊々杵根(ににぎのみこと)と結婚 . 海幸彦・山幸彦を産む .
 神武天皇の曾祖母 . 花に例えると「桜」 . 山に例えると「富士山」というほどの美人 .
 ・酒造・山火鎮火・五穀豊穡・養蚕・良縁・安産の神 .
 ・静岡県富士宮市・浅間神社 . 鹿児島県霧島町・霧島神社 .
- 12 . 神功皇后 (じんぐうこうごう)
 浅丘町 (金)・八幡神社 .
 榎尾町 (金)・八幡神社 .
 東荒屋 (津)・八幡神社 .
 別所 (津)・八幡神社 .
 俱利伽羅 (津)・手向神社 .
 地祇族・・別名、息長帯姫命 (おきながたらしひめのみこと) . 応神天皇(4)の母 . 仲哀天皇(16)(夫)とクマソを征伐 . 夫は敵の矢で死亡 . 夫に代わってクマソを征伐 . 余勢を駆って朝鮮の新羅も征伐 . 凱旋後にうまれたのが応神天皇 .

- ・子授け・縁結び・安産・商売繁盛・厄除け・鎌倉市・鶴岡八幡宮・敦賀市・気比神宮・
 - 13. 菅原大神(すがわらのおおかみ)
 - 下中(津)・菅原神社。
 - 人物神・菅原道真のこと。菅原是善の子。政敵、藤原時平の讒言により太宰府に流され、その地で歿した。彼の死後、朝廷に不幸が続く、落雷や早魃などの天災が続いた。これは道真の怨霊が雷神となったためと考え、天神の信仰が生まれた。菅原家を祖先と称していた前田家は、天満宮を大切にした。道真は丑年に生まれ、丑年に死んだので、天神様の境内には牛の像があり、その頭を撫でると頭脳明晰になるとか。
 - ・学問・詩歌・文筆・雷除け。
 - ・京都市上京区・北野天満宮。福岡県太宰府市・大宰府天満宮。
 - 14. 少彦名命(すくなひこなのみこと)
 - 浅谷(津)・少彦名神社。
 - 少名彦命(すくなひこのみこと)
 - 南横根(津)・少名彦神社
 - 天神族・父は神産霊日神(かみむすびのかみ)。オオクニヌシと二人で国造りに励んだ小さな神。「アメノカガビブネ」に乗って光り輝きながら現れた。
 - ・温泉・医薬・国土開発の神。
 - ・横浜市緑区・医薬神社。大阪市東区道修町・少彦名神社。
 - 15. 素盞鳴神(スサノオノカミ)
 - 依原町(金)・熊野神社。
 - 素盞鳴命(スサノオノミコト)
 - 俱利伽羅(津)・手向神社。
 - 地祇族・イザナミがミソギをした時、鼻から生まれた。乱暴がすぎたので、アマテラスが天岩戸に隠れてしまい、高天原から追放された荒ぶる神。出雲に降臨。ヤマタノオロチを退治した英雄。
 - 16. 仲哀天皇(ちゅうあいてんのう)
 - 東荒屋(津)・八幡神社。
 - 別所(津)・八幡神社。
 - 天神族・ヤマトタケルの子。妻は神功皇后(12)。父の墓の堀に浮べるため白鳥を全国から集めた。越の国から四隻(八羽)献上。
 - 17. 比咩大神(ヒメノオオカミ)
 - 浅丘町(金)・八幡神社。
 - 榎尾町(金)・八幡神社。
 - 比売大神(ヒメノオオカミ)
 - 南千石町(金)・護国神社。
 - 祭神の妻の場合、特に名を書かずヒメガミと称することが多い。八チマンの場合、応神天皇の妻。
 - 18. 罔象女神(みずはのめのかみ)
 - 七野(津)・貴船神社。
 - 弥都波能売神(みずはのめのかみ)
 - 千杉町(金)・貴船神社。
 - 天神族・イザナギ、イザナミの子。イザナミがカグツチを産み苦しんでいる時、尿から生まれた。その時、一緒に生まれたのが和久産巢日神(わくむすびのかみ)。「ミズハ」は「水走」で水が湧出し走り出る意。
 - ・肥料として再生産に結びつく農業の神。雨を左右する水の神。
 - ・奈良県吉野郡・丹生川上神社。
- 次に、神社誌、河北郡誌その他に記載は無いが、合祀されていても祭神として祀られていない神々を記載する。

櫛稲田比売命(くしなだひめのみこと)

南千石神社(金).

地祇族・父・足名椎命(あしなづちのみこと)

母・手名椎命(てなづちのみこと).

毎年秋に高志(こし・北陸地方)からやって来るヤマタノオロチに姉達を食べられた一人残った末娘・オロチを退治したスサノオ(15)と結婚.

- ・国家隆昌・五穀豊穰・縁結び.
- ・京都市東山区祇園町・八坂神社.

野椎神(のづちのかみ)

滝下町(金)・野蚊神社.

琴町(金)・野蚊神社.

天神族・護国神社神社(12)の項に紹介.

日本武尊(やまとたけるのみこと)

琴坂町(金)・日本武神社.

地祇族・倭建命(古事記)とも書く. 第12代景行天皇の三男. 母は針間伊那毘能大郎女(はりまのいなびのおいらつめ). 幼名小碓命(おうすのみこと)またの名を倭男具那命(やまとのおぐなのみこと). 兄の大碓命とは双生児. 父の命で九州のクマソを征伐し, 東のエゾを征伐. 帰途, 伊吹山で病に罹り, 三重の能褒野(のぼの)で歿し, 白鳥に化身する.

- ・出世・開運祈願・厄除け・農業・金属の神.
- ・津幡町加賀爪・白鳥神社. 大阪府堺市・大鳥神社.

津幡・萩坂谷の式内社

次に, 式内社に注目して, 津幡・萩坂谷の神社をみてみたい. 加賀の国の式内社は, 江沼郡に十一座, 能美郡に八座, 石川郡に十座, 加賀郡(現河北郡. 加賀郡は室町時代ごろから河北郡とよばれるようになった. 河は原則として浅野川を指す)に十三座となっている. 以下に, 加賀郡十三座の式内社とそれぞれに比定される神

社を示す. 比定される神社が複数の場合, すべてを記載した. またこのうち萩坂谷にある神社には を記した.

[註] 式内社とは延喜格式に記された神社のこと. 延喜格式は, 日本の格式編集の最後のもの. 弘仁十一年(820)弘仁格式成立. 貞観十一年(869)貞観格成立. 貞観十三年(871)貞観式成立. 延喜格式は, 延喜五年(905)醍醐天皇の命により, 左大臣藤原時平が主宰し編集を始めた. 延長五年(869)50巻完成. 内容は宮中行事, 官庁の事務制度, 神祇に関する事など. 最初の10巻は神祇制度について記載してあり, 巻8は祝詞, 巻9・10は神名帳で全国の官社3,132座(2,861社)を列記してある. それに列する神社は「式内社」とよばれ, 社格を権威付けられている.

小濱(おはま)神社

小濱(おはま)神社 河北郡内灘町大根布

野間(のま)神社

野間(のま)神社 金沢市玉鉾町

野間(のま)神社 金沢市小坂町東

三輪(みわ)神社

石浦(いしうら)神社 金沢市本多町3丁目

三輪(みわ)神社 河北郡津幡町北中条

賀茂(かも)神社

賀茂(かも)神社 河北郡宇ノ気町横山

神田(かんだ)神社

少名彦(すくなひこ)神社 金沢市田上本町

神田(かんだ)神社 金沢市神田1丁目

下野間(しもま)神社

下野間(しもま)神社 金沢市乙丸町

郡家(ぐんけ)神社

郡家(ぐんけ)神社 金沢市吉原町

日吉(ひよし)神社 金沢市三池町

郡家(ぐんけ)神社 金沢市鈴見町

須岐(すき)神社

須岐(すき)神社 金沢市東蚊爪町

野蚊（のか）神社

野蚊（のか）神社 金沢市神谷内町

波自加弥（はじかみ）神社

波自加弥（はじかみ）神社 金沢市八幡町

大野湊（おおのみなと）神社

大野湊（おおのみなと）神社 金沢市寺中町

野蚊（のか）神社

金山彦（かなやまひこ）神社 金沢市西蚊爪町

笠野（かさの）神社 河北郡津幡町刈安

野蚊（のか）神社 金沢市琴町

野蚊（のか）神社 金沢市滝下町

笠野（かさの）神社

笠野（かさの）神社 河北郡津幡町笠池ケ原

清水八幡（しみずはちまん）神社 河北郡津幡町

清水

おわりに

いまでは過疎地といわれている萩坂谷に、なぜ式内社に比定されるような「格式」の高い神社があるのだろうか。

答えは簡単である。水田農業は、水の管理が容易な山手から始まったからである。稲作が始まった頃の萩坂は農業先進地であった。

「萩坂」には特徴的な祭神がみられる。33社の内6社を占める「白山神社」のククリヒメである。先に全国3,000社と書いたが、明治後期、全国的に神社の合祀が行われ、一つの集落に1社とされた（ただし当町では表能瀬・浦能瀬、太田北出・南出、津幡と小字の平谷には2社ある）。合祀後、新しい神社名に変わった後の調査の全国に分布する白山神社の総数は2,716社であった。神社名が変更される以前はこれ以上の白山神社があったと推定されるし、戦後分祀されたケースも多い。

白山神の広がりには、特に平安時代に比叡山延暦寺と結びついて以降強まり、白山神は有力寺院の山内に次々に勧請されていった。神社分布の各県の白山社の数をみると、日本海側の福井

県から新潟・富山・石川県などに多いことが分かる。白山神が日本海を航行する、海上交通に携わる人々の航海安全の祈願の対象になっていたことが思われ、さらに白山神は山麓各地の河川をたどって、内陸にも勧請されていることが分かる。

延喜式内社として、加賀には白山比咩神社（石川郡鶴来町）があるが、能登を含め、県内に数多く存在する「白山神社」に延喜式内社とされる神社は一社も無いのは不思議である。

その他、特徴的な祭神としては、津幡の大坪の金山彦神社の金山彦神がある。津幡町には神社誌に登録された78座の神社があるが、金山彦は他にはみられない。

その他、東荒屋（津幡）・貴船神社の大山昨命、井野河内（津幡）・富士社の大山祇神、千杉町（金沢）・貴船神社及び七野（津幡）・貴船神社の閻神、井野河内（津幡）・富士社の木花開耶姫命、下中（津幡）・菅原神社の菅原道真、以上の「山」、「水源」の神々も津幡町の他の神社には祀られていない（祭神の性格は宮本（1998）を参照のこと）。

また、「萩坂」の神社には祀られていないが、津幡の神社に祀られている特徴的な祭神は、以下のようなものが挙げられる。

春日神社の祭神「天児屋根命（あまのこやねのみこと）・経津主命（ふつぬしのみこと）」

舟橋・八幡神社、北中条・三輪神社、山北・八幡神社

海の神・宗像三神の一人「市杵島姫命（いしまひめのみこと）」

表能瀬・比咩神社、河内・八幡神社、越中坂・八幡神社

稻荷神社の祭神「倉稻魂命（うかのみたまのみこと）」

下河合・御山神社、北中条・三輪神社

海・航海の神・住吉三神「表筒之男神（うわつつのおのかみ）・中筒之男神・底筒之男神」

川尻・住吉神社，太田・住吉神社
諏訪神社の祭神「健御名方命（たけみなかたのみこと）・八坂刀売命（やさかとめのみこと）」
大熊・甲斐崎神社，潟端・加賀神社，谷・笠谷神社，九折・白山神社，田屋・八幡神社，加茂・加茂神社，清水・清水八幡神社，下矢田・諏訪社
海・航海の神「綿津見神（わたつみのかみ）」
庄・住吉神社

引用文献

石川県神社誌．昭和51（1976）．石川県神社庁．

館報つばた．昭和35（1960）．津幡町中央公民館発行．

石川県河北郡誌．大正9（1921）．石川県河北郡役所．

日本の神々の事典．平成9（1997）．学習研究社．
神道の本．平成4（1992）．学習研究社．

日本の神様を知る事典．平成7（1995）．阿部正路．日本文芸社．

日本多神教の風土．平成9（1997）．久保田展弘．PHP研究所．

古典日本文学全集1「古事記・日本霊異記・風土記・古代歌謡」．昭和35（1960）．筑摩書房．

